

「もしも」に備え、「起こさせない」ための医療。 迅速な診療体制で地域を支える「脳卒中センター」。

脳卒中は、日本人の死因および要介護原因の上位を占め続ける重大な疾患で、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血はいずれも突然発症し、ひとたび起これば生命や生活の質に深刻な影響を及ぼすといわれている。とりわけ高齢化が進む現代において、脳卒中医療は個人の問題にとどまらず、地域全体で支えるべき医療課題となっている。

岡山の地域医療を支える岡山旭東病院の脳卒中センターは、こうした現実を正面から向き合う医療拠点。その特徴を半田明センター長はこう説明する。「当センターでは、脳神経内科、脳神経外科が中心となり、放射線科、リハビリテー

ション科、栄養サポートチーム（NST）が密接に連携しながら、急性期治療から回復支援、そして再発予防まで、切れ目のない医療体制を整えています」。

続けて半田センター長は、「脳卒中治療において最も重要なのは『時間』と指摘する。発症から治療開始までのわずかな遅れが、生死や後遺症の重さを左右しかねない。同院では、MRI（四台）やCTによる迅速な画像診断体制を整え、脳梗塞に対する血栓溶解療法（tPA）や血管内治療といった急性期医療に二四時間体制で対応している。加えて、特に迅速な対応が求められる急性期脳梗塞の血栓回収においては、共有ア

プリ「JOIN」を活用することで、各スタッフ間の素早い画像確認や連携を実現、より迅速な対応を可能にしている。

突然発症する脳卒中を未然に防ぐ。日常のリスク管理が重要。

現在、同院が重視しているのは「発症してから」だけでなく、脳卒中を未然に防ぐ医療。「脳卒中の背景には、高血圧、糖尿病、脂質異常症、不整脈などの生活習慣病が深く関与しているといわれています。そうした危険因子は、日常生活のなかで静かに進行し、症状が現れる前から血管や心臓に負担をかけているだけに、定期的な検査による早期発見とリスク管理が大切です」と半田センター長は注意を促す。同院の健康センターが行なっている脳ドックは、こうした「沈黙のリスク」を可視化する手段。検査結果をもとに生活習慣の改善や適切な薬物療法を行なうことで、将来の発症や再発を未然に防ぐことに役立っている。

脳卒中は年齢を問わず発症リスクのある疾患。決して他人事ではない。「もしも」に備え、そして「起こさせない」ための医療。脳卒中センターが果たす役割は大きい。

お問合せ 岡山旭東病院
086・276・3231



脳卒中センター長
半田 明

NEWS

脳卒中のサインFASTを覚えましょう

脳卒中を見逃さないように、脳卒中の可能性が高いと考えられる初期症状の合言葉「FAST」を覚えて、早期発見・早期治療をしましょう。

Face 「イー」とした時の顔の動きに左右差がある
顔のゆがみ

Speech ろれつが回らない・物の名前が出ない
うまく喋れない

Arm 両腕を胸の高さでまっすぐ上げた時、
片腕だけが下に落ちてくる
片腕の麻痺

Time FASのうち、1つでも当てはまれば
すぐに受診
すぐに救急車を呼びましょう

詳しい解説動画は
こちら[YouTube]



イベントのご案内

当院では、健康教室や園芸教室、コンサート、展示会など、どなたでもご参加いただけるイベントを開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。

岡山旭東病院
イベント情報



No.141

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

2026

5-6月号

1100円

(本体1000円)

オセラ



新たな一面に出会う

大人のための 岡山案内

岡山城
表町周辺
出石町周辺
高梁市・吹屋
倉敷市・児島
源泉かけ流し温泉



まち・みち案内

兵庫県 たつの市

大人のためのご馳走。

とっておきを探しに。